

須木の大自然を満喫 わくわくすきむらんど祭り

4月27日から5月6日にかけて、わくわくすきむらんど祭りが開催されました。市内外から約2000人が来場し、地元の特産品や工芸品を販売する須木物産市や金魚すくいなどを満喫。また、子どもが楽しめるタケノコ輪投げ、魚のつかみ取り大会などもあり、会場は多くの人で賑わいました。



約360匹のニジマスやコイのつかみ取りを楽しむ子どもたち。また、小野湖ではSUPなどの体験教室が同時開催されました

畜産業発展を祈願して 保食神社で馬頭観世音祭

5月8日、小林地域家畜市場内の保食神社で馬頭観世音祭が開催されました。畜産関係者ら約200人が参加し、家畜の無病息災と発展を祈願。市畜産振興会連合会の折田巖理事長は「畜産は市の基幹産業。家畜防疫のあり方を再確認し、畜産業が益々発展するよう努力したい」とあいさつしました。



馬頭観世音祭は、家畜の慰霊、五穀豊穡や家内安全を祈願するもの。市内の各地域でも、伝統行事として行われています



園内に咲き誇るカリフォルニアポピー。まつり期間中は、花の苗プレゼントやガーデニング教室、物産市などが行われました

色鮮やかなポピーの絨毯 生駒高原でポピーまつり開催

4月20日から5月19日にかけて、生駒高原ポピーまつり2019が開催されました。広さ12ヘクタールの園内では、ピンクや黄色のアイスランドポピーと、オレンジ色のカリフォルニアポピーなど約25万本が満開。県内外から期間中に約2万1000人が来場し、満開のポピーを眺めていました。



色鮮やかなバラを眺める来場者。フェスタ最終日には、大塚原バラ園でハーブや物産を楽しむ大塚原バラ祭りも開催されました

野尻のバラの名所を巡る ローズフェスタ2019開催

5月5日から12日にかけて、のじりローズフェスタ2019が開催されました。萩の茶屋、吉山園芸、のじりアグリサービス、大塚原バラ園の4か所で地元農作物や食事券などが当たるスタンプラリーを実施。期間中は約1000人が来場し、色鮮やかなバラを見ながら各施設を周遊していました。

須木で薫風杯剣道大会を開催

4月29日、薫風杯剣道大会が須木地区体育館で開催されました。県内外の小・中学生ら39団体119チーム414人、うち市内からは6団体39人が出場。技が決まると、チームメイトや保護者から大きな歓声が上がっていました。



若い経営者の主張発表大会で最優秀賞

5月8日、すき商工会青年部の山川伸さんが若い経営者の主張発表大会で最優秀賞を受賞しました。地元を気づける活動を通して、人とのつながりが重要だと痛感したことを発表。山川さんは「須木がもっと元気になるばうれしい」と話していました。



全日本シニア軟式野球大会へ出場

5月20日、シニア野球チームのポワローの選手らが全日本シニア軟式野球大会へ出場することを市長へ報告しました。主将の片平俊一さんは「結成して4年目で出場できた。まずは初戦突破を目指したい」と話していました。



細野地区特別教育講演会を開催

5月22日、細野地区特別教育講演会が開催されました。登壇した居酒屋「てっぺん」創業者の大嶋啓介さんは、「どんな人でも可能性を持っている。自分への思い込みが変われれば人生が変わります」と自分の経験を踏まえて話していました。



左からマンゴー部会の松田泰一部長、宮原市長と大角部長。松田部長は「今年は天候に恵まれ収量は過去最高に近い」と話していました

メロン・マンゴーの出来は上々 多くの人に味わってほしい

5月20日、第8回メロン・マンゴーフェアの開催に伴い、JAこばやしメロン部会と同マンゴー部会から宮崎ブランドの「めろめろメロン」と「太陽のタマゴ」が贈呈されました。メロン部会の大角正広部長は「温度管理に気を配り、今年もいいものができた。ぜひ皆さんに味わってほしい」と話していました。



1月から準備委員会を設置して内容を協議。同総会には、小林秀峰高校、県やJAこばやしなどの代表ら約30人が出席しました

全国和牛ハイスクールサミットの 実行委員会設立総会を開催

5月23日、10月に開催される全国和牛ハイスクールサミット in こばやしの実行委員会設立総会が開催されました。同サミットの開催を通して、参加する高校生に仲間づくりや畜産の魅力を見つけて今後の人生選択に役立ててもらおうことが目的。総会では、実行委員会の規約や事業計画などが協議されました。

酒類鑑評会で須木焼酎と山猪が優等賞をダブル受賞

5月14日、すき酒造株式会社の内嶋光雄さんが、熊本国税局の酒類鑑評会で優等賞を受賞しました。酒造りの責任者にあたる杜氏である内嶋さんは、「地域の人たちに愛されている焼酎も多くある。これからも県内外にPRして、今以上に地域の発展に貢献していきたい」と話していました。



受賞した須木焼酎と山猪を手にする内嶋さん（写真右）ら。山猪は本市のふるさと納税の返礼品のひとつです

小林小校区の活性化を目指し 30人に地域支援員を委嘱

5月15日、小林小学校区のきずな協働体設立を目指し、住民ら30人に地域支援員を委嘱しました。きずな協働体は、地域住民と協働でまちづくりを進める組織。これから1年間、地域の魅力や課題を発掘し、安心安全で魅力的なまちづくりを推進する活動に関係者がひとつになり取り組みます。



地域支援員の皆さん。このほか、地域担当職員として市職員13人にも委嘱状を交付。互いに連携しながらまちづくりを進めていきます



誓いのことばを述べる大木場主任研究員。教育研究センターは創設36年目を迎え、本市教育の充実発展に寄与しています

キャリア教育研究深める 教育研究センター21人委嘱

5月13日、市教育研究センター研究員に市内小・中学校の教員21人が委嘱されました。代表して三松小学校の大木場俊弘主任研究員は「プレッシャーもあるが、やりがいを感じる。こすもす科の改定作業を通して、キャリア教育推進のために貢献していきたい」と誓いのことばを述べました。



草刈り機を使い生い茂った草を刈る参加者。まつり期間中は、普段は立ち入りが禁止されている遊歩道が開放されます

出の山のホタル保護のため ボランティア清掃を実施

5月14日、「出の山ホタル恋まつり」を前に、ボランティア清掃活動を行いました。観光協会、商工会議所、地元業者やボランティアなど約70人が参加。遊歩道などの草刈り作業やゴミ拾いを行い、観賞客がたくさんホタルの舞を近くで観賞できるような環境を整えました。